

<アジアプレス設立 30 年記念イベント>

# 独立系ジャーナリズムは アジアをどう取材してきたか



1987年に設立されたアジアプレスは、メディアに属さない<独立>の立場で、日本はもとより朝鮮半島、イラク、シリアなどの中東、中国、ミャンマー、インドネシア、カンボジア、カシミールなどアジア諸国を中心に取材。写真やビデオを駆使し、活字媒体やテレビでの報告に加えドキュメンタリー映画も制作してきた。長く現場に立ってきたジャーナリストが取材の手法と経験を報告。合わせて、日本を含むアジア各国で深まる報道の危機の現状と課題について論じます。

●7月22日(土)13時～17時30分 早稲田大学小野記念講堂 入場無料 定員200名

第1部 紛争地・強権国家を取材するビデオジャーナリスト 13時～14時30分 / 司会 野中章弘

- ① 古居みずえ & 玉本英子 女性が取材したパレスチナとイラク・シリア
- ② 綿井健陽 米国に壊されたイラクの現場から
- ③ 石丸次郎 閉鎖国家・北朝鮮の内部に迫る

第2部 ルポとドキュメンタリー 長期の現場取材、密着という手法  
14時45分～16時 / 司会 石丸次郎

- ① 吉田敏浩 ビルマ辺境長期取材から日米密約ルポまで
- ② 刀川和也 児童養護施設の日常に8年間密着 ドキュメンタリー映画に挑むとは 他のアジアプレスメンバーも発言します

第3部 [討論] 危機に瀕するアジアのジャーナリズム 私たちに何ができるか  
16時15分～17時30分 / 野中章弘、吉田敏浩、石丸次郎、綿井建陽 他

●7月23日(日)13時～18時(二部制) 早稲田小劇場どらま館

現場報告 匿されし国の取材 ～北朝鮮とイラク・シリア・アフガンの現場から～  
接近が困難かつ危険な地域の核心にどう迫るか? 20余年にわたり現場取材を続けて来た玉本英子と石丸次郎が映像を交えて報告します。

第1部 北朝鮮取材 その現場と方法 石丸次郎

12時30分開場 13時～15時 入場料1000円(予約不要・先着順)

第2部 会社員からジャーナリストへ 中東取材20年 玉本英子

15時30分開場 16時～18時 入場料1000円(予約不要・先着順)

※公開処刑されたアフガン女性を追ったドキュメンタリー「ザルミーナ」(2004年・50分)も上映、解説します。  
(1部と2部は入れ替え制です。予約不要・先着順に整理券を配布します。一日通し券は1500円)

主催

- 早稲田大学ジャーナリズム研究所
- アジアプレス・インターナショナル

お問合せ

●アジアプレス大阪オフィス  
大阪市北区浮田 1-2-3  
サヌカイトビル 303  
TEL/FAX (06) 6373-2444  
osaka@asiapress.org



7月24日～7月29日アジアプレスメンバーのドキュメンタリー映画一挙上映(詳しくは裏面へ)

# アジアプレスメンバーのドキュメンタリー 8 作品



## ガーダ パレスチナの詩

★石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞(2006年)受賞  
★釜山国際映画祭(2005年)出品  
★テヘラン・ファジル国際映画祭(2006年)出品  
現代パレスチナの女性の生きざまをとらえたドキュメンタリー。主人公ガーダの23歳から35歳までの結婚や出産などの出来事を追いつつ、イスラエル占領下の難民キャンプで生きる人々のリアルな日常生活を描き出す。困難な状況の中、故郷パレスチナの料理や歌い継ぐべき詩歌を残そうと奔走する女性の成長ぶりが深い感動を生む。男性社会のパレスチナで女性たちの姿をとらえた、希少価値の高い作品。

パレスチナ/2006年  
監督:古居みずえ/106分



## 飯館村の母ちゃんたち 土とともに

★全州国際映画祭(2017年)出品  
福島第一原発の事故により、仮設住宅暮らしを余儀なくされた2人の女性が、泣き笑いながら、たくましく生きる姿を描いたドキュメンタリー。地元・福島県飯館村で孫に囲まれて幸せに暮らす、ごくありふれた老後を考えていた79歳の菅野榮子さん。しかし、原発事故により飯館村は全村避難となり、ひとりで仮設住宅での生活を余儀なくされる。榮子さんの心の支えとなるのは、隣に移ってきた友人の菅野芳子さんだった。互いに元気づける2人が、仮設暮らしの中でこれからを模索していく。

日本/2016年  
監督:古居みずえ/95分



## ぼくたちは見た - ガザ・サムニ家の子どもたち -

★座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル(2012年)大賞受賞  
2008年から09年にかけてのイスラエル軍によるパレスチナ・ガザ地区への大侵襲。本作の監督であるジャーナリスト・古居みずえは、攻撃直後に現地に入り、300人以上の子どもたちが犠牲になっていたことに大きなショックを受け取材を始める。ガザ南部の農業地帯ゼイトゥーンに住むサムニ家の子どもたちは、一族が一度に29人も殺されるという、過酷な事件を経験していた。古居みずえのカメラは、家族を失いながらも、懸命に生きる子どもたちの生活を静かに見守り、彼らの心の傷と変化を写し出す。

パレスチナ/2011年  
監督:古居みずえ/86分



## イラク チグリスに浮かぶ平和

★キネマ旬報ベストテン・文化映画部門第10位(2014年)  
★フランス・FIPA国際映像祭(2015年)特別賞受賞  
★座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル(2015年)大賞受賞  
戦火の人生—それでも、日々はつづいていく。イラク戦争がはじまって10年。10万人以上のイラク人が命を奪われた。いまなお続く混乱の中で、彼らは何を見つめているのか?ジャーナリスト綿井健陽が刻みつけたイラクでの出会いと別れ—ある家族との10年の記録。

イラク/2014年  
監督:綿井健陽/108分  
(写真©ソネットエンタテインメント/綿井健陽)



## 隣る人

★山形国際ドキュメンタリー映画祭(2011年)ニュー・ドックス・ジャパン部門招待  
★第9回文化庁映画賞・文化記録映画部門大賞(2012年)受賞  
★第37回日本カトリック映画賞(2013年)受賞  
地方のとある児童養護施設。「私の全存在を受け止めて!」と不安の中で揺れ動き続ける子どもたち。自らの信念とその重さに格闘しながらも、子どもに寄り添い続けようとする保育士たち。離れて暮らす子どもとふたたび生活できるようになることを願い人生を修復しようともがく実の親など、生命力に溢れる人々の姿が瑞々しく描かれ、どこにでもありそうな日常なのに、観る者を笑いと涙、人と人とのぶつかり合いの温もりで包み込む。

日本/2012年  
監督:刀川和也/85分



## アンナの道(完全版) — 昨日今日そして明日へ2 第一部

北タイに生きるHIV陽性者女性のアンナの日常生活を12年にわたって描いた作品。母として、妻として、そして村のエイズ孤児たちの母として生きるアンナの生き様から、人と人との関係性を見つめ、日だまりに抱かれて生きる「いのち」を、情感溢れる映像で描き出す。本作品は、『アンナの道—私からあなたへ』2009年度版(釜山国際映画祭2009出品、山形国際ドキュメンタリー映画祭2009出品他)を再編集し、2015年度に京都大学大学院博士学位論文とともに提出された作品である。

タイ/2013年  
監督:直井里予/70分



## ダイビング・ベル - セウォル号の真実

乗員・乗客に死者295人、行方不明者9人、捜索作業員に死者8人を出した韓国最悪の海難事故、「セウォル号」事件を描いたドキュメンタリー作品。2014年4月に韓国・珍島沖で沈没した旅客船「セウォル号」には、修学旅行に向かう多くの高校生が取り残されていた。救出作業の初動段階で、民間の長時間潜水設備「ダイビング・ベル」(潜水鐘)の投入を巡り、当時の政府・海洋警察の判断は混乱した。カメラはその現場の混乱ぶりを、潜水業者に密着してあぶり出す。同年、釜山国際映画祭で市長が上映中止を求めるなど、韓国社会に大きな物議を醸した作品。

韓国/2014年/監督:  
安海龍(アン・ヘリョン=韓国)/77分



## ザルミーナ・公開処刑されたアフガン女性

タリバン政権下のアフガニスタンで、ひとりの女性が公開銃殺刑になった。夫殺し、売春、不倫。その女性、ザルミーナの周辺からアフガンの闇が見えてくる。「母は処刑されて当然」とザルミーナの娘は言う。処刑までの日を追いつつ、売春婦や強姦された女性を取材。ザルミーナを公開処刑にしたのはタリバンだが、死を突きつけたのはアフガニスタン社会であることが明らかになる。

アフガニスタン/2004年  
監督:玉本英子/50分

## 上映スケジュール 早稲田小劇場ドラマ館

### ◆7月24日(月) 直井里予・刀川和也監督作品上映とトーク

17時30分開場 18時開演「アンナの道」(70分)  
19時30分「隣る人」(85分) / 上映後 刀川和也監督トーク  
21時45分終了予定  
(入場料 1本のみは1000円 2本通しは1500円、学生1000円)

### ◆7月26日(水) 刀川和也・安海龍監督作品上映とトーク

17時30分開場 18時開演「隣る人」(85分)  
19時45分「ダイビングベル」(77分) / 上映後、安海龍監督トーク  
21時45分終了予定  
(入場料 1本のみは1000円 2本通しは1500円、学生1000円)

### ◆7月27日(木) 玉本英子・古居みずえ監督作品上映とトーク

17時30分開場 18時開演「ザルミーナ」(50分)  
19時10分「ぼくたちは見た」(86分) / 上映後、古居みずえ監督トーク  
21時30分終了予定  
(入場料 1本のみは1000円 2本通しは1500円、学生1000円)

### ◆7月28日(金) 綿井健陽監督作品上映とトーク

18時開場 18時30分開演  
「イラク チグリスに浮かぶ平和」(108分)  
上映後、綿井健陽監督トーク  
21時終了予定(入場料1000円)

### ◆7月29日(土) 古居みずえ監督作品上映とトーク

12時30分開場 13時開演「ガーダ パレスチナの詩」(106分)  
15時10分「飯館村の母ちゃんたち」(95分)  
上映後、古居みずえ監督トーク 17時30分終了予定  
(入場料 1本のみは1000円、2本通しは1500円、学生1000円)

## シンポ・上映会場詳細

### ◆小野記念講堂／早稲田小劇場ドラマ館へのアクセス

(映画上映は各回とも定員60名。予約不要、先着順の入場です。定員に達した場合、入場をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください)



- 東京メトロ(地下鉄)東西線「早稲田駅」3b、2番出口より徒歩5~6分
- JR山手線/西武新宿線「高田馬場駅」より、都営バス「早大正門」行きで終点「早大正門」で下車(所要10~15分)徒歩2分。